

7 小笠原小第 2 5 2 号
令和 8 年 3 月 6 日

小笠原村教育委員会教育長
上原 一夫 様

小笠原村立小笠原小学校長
西村 浩
(公印省略)

令和 7 年度 小笠原村立小笠原小学校 学校評価の結果等に関する報告

標記の件について、下記のとおり報告します。

記

1 本校の教育目標及び教育目標を達成するための基本方針

(1) 教育目標

心ふるわせる感動を通して感性を豊かに働かせ、心身ともに、たくましく、しなやかに生きる児童をはぐくむために、次の教育目標を定める。

- 自分を大切にし、思いやりの心をもとう
- 夢や目標をもち、たえず学び続けよう
- 心と体を鍛え、爽やかな感動を生もう

(2) 学校の教育目標を達成するための基本方針

- ア 義務教育 9 年間の学びの系統性に即した学習指導の充実
- イ 子供ファーストの個に応じた指導の充実と推進
- ウ 人権教育と心の教育の推進
- エ 健やかな体、健康で安全に生活する力を育む教育の推進
- オ 国際社会で活躍できる資質・能力の育成と地域に開かれた学校

2 今年度の学校経営方針において重点課題として設定した項目及びその実績

①「確かな学力」の向上

- ・小・中学校教員によるティームティーチングの実施。
- ・児童の「〇〇したい」を引き出す授業を目指した校内研究の推進。
- ・主体的に学び意欲の向上、学習習慣の定着への取組
- ・地域を生かした教育活動（小笠原学習）の充実。

②「豊かな心」の育成及び「支援体制」の充実

- ・互いに認め合い、居心地の良い学級、学校づくりの推進。
- ・異学年交流（たてわり班活動）の実施。
- ・基本的な生活習慣と規範意識の育成。
- ・いじめを許さない指導の徹底と毎月のアンケート実施。
- ・道徳授業を中心とした全教育活動における心の教育・道徳教育の推進。

- ・児童相互が多様性を理解し、共に学び生活できる環境・授業づくりに推進。
(交流及び共同学習・小集団学習)
- ・ヤシの木学級・ヤシの木特別支援教室の適正な運営と充実。
- ・支援委員会の運営と対応の充実。(配慮を必要とする児童の実態把握、早期の相談、支援等)
- ・教育相談の充実、ＳＣの活用
- ・保育園との連携、交流の実施。

○「児童学校評価」(全学年で実施)より

- ・学校が楽しい。肯定的な回答 85%、否定的な回答 15%
- ・学級が楽しい。肯定的な回答 86%、否定的な回答 14%
- ・友達と仲良くしている。肯定的な回答 87%、否定的な回答 13%
- ・困ったときに相談できる友達や先生がいる。肯定的な回答 87%、否定的な回答 13%

○保護者学校評価より

- ・【相談体制】学校は、児童の不安や心配、困りごとなどにすぐに相談できる体制を整えたり、スクールカウンセラーによる第 5 学年全員面接などを行ったりして児童の安心・安全に努めている。

肯定的な回答 66.7%、否定的な回答 7.7%、不明 21.8%

- ・【保小連携】学校は、園児・児童の相互理解を図るために、交流していることを知っている。

肯定的な回答 85.9%、否定的な回答 6.4%、不明 7.7%

③「健やかな体」の育成

- ・ねらいが明確で運動量が確保された体育の授業の実施
- ・自分の心と体を大切にする指導(保健指導、ＳＯＳの出し方に関する指導、性に関する教育)を実施。
- ・基本的な生活習慣の確立するため、パワーアップ週間を実施。
- ・毎月の安全指導の徹底、交通安全、災害安全に関する指導の充実。
- ・望ましい食習慣を目指し、三大栄養素への関心を高める指導や食育放送、保健だより等による指導を継続して実施。

○保護者学校評価より

- ・【健康・体力づくり】学校は、家庭での健康管理や体力づくりを推進するために、家庭と連携し適切に支援している。

肯定的な回答 65.8%、否定的な回答 14.1%、不明 19.2%

※ アンケート結果の数値については、端数及び未回答により合計が 100%とならない場合がある。

3 関係者評価の概要

ア 保護者等 回答率 97.4%

- ・学力向上について 肯定的な回答 80.8%、否定的な回答 6.4%、不明 10.3%
- ・相談体制について 肯定的な回答 66.7%、否定的な回答 7.7%、不明 21.8%
- ・健康体力について 肯定的な回答 62.8%、否定的な回答 14.1%、不明 19.2%

イ 児童 回答率 94.3%

- ・学習が好きについて 肯定的な回答 70.0%、否定的な回答 30.0%
- ・相談体制について 肯定的な回答 87.0%、否定的な回答 13.0%
- ・健康体力について 肯定的な回答 70.0%、否定的な回答 30.0%

ウ 教職員（教職員へは児童の学校評価の結果を受けて、自由意見によるアンケート調査を行った）

- ①積極的に自分の考えを書いたり、友達に伝えたりすることができるようになってきた。
- ①学習への意欲が向上している。特に「考えを伝えたい」という児童が、4年生で 84.6%→98.7%（+14.1pt）、6年生で 45.8%→68.1%（+22.3pt）となった。
- ①漢字小テストの結果が、1学期と3学期を比べると 20%以上上昇している。
- ②成功体験を積み重ねることで、「できた」「わかった」と感じる場面が増え、自己肯定感の向上が見られた。
- ②特別支援教室担当と担任がと協力して対応したことで通級児童が増え、個に応じた合理的な配慮や支援ができています。
- ③外部団体や診療所歯科衛生士の協力を仰ぎ、1，3，5年生に歯科指導を実施することができた。しかしながら日々の歯みがきの様子にまだ形だけの様子も見られるので、丁寧な歯みがきに向け引き続き取り組みを継続していく。
- ③ロードレース大会へ向けて、児童がそれぞれで目標を設定し進んで取り組む姿が見られた。

【考察】

- ①校内研究や研修等を通して、児童が「〇〇したい」と思える授業づくりに学校全体で取り組み、講師の指導のもと効果的な指導方法を共有したりしたことで、児童の学習に対する意欲に高まりが見られた。
- ②児童が適切な援助希求行動がとれるよう、相談体制を充実させるなど、児童が教員に相談しやすい雰囲気づくりを推進していく。今年度、スクールカウンセラーと連携した支援を行うことができたので、次年度はさらにスクールカウンセラーの活用を推進していく。
- ③校庭などでの外遊びを促すとともに、体育学習の充実を図り、年間を通して計画的に体を動かす機会を増やしていく。

※ アンケートの結果の数値については、端数及び未回答により合計が 100%とならない場合がある。

4 本年度の取組内容及び自己評価

	本年度の 重点目標	具体的な取組内容	取組内容の自己評価
取組①	確かな学力の 向上	○学力向上に関する取組 ○校内研究 ○授業改善プランの活用 ○OJTの充実 ○小笠原学習の充実 ○学習者用端末の活用促進 ○学習スタンダード等学習規律の徹底	・校内研究では、児童の「〇〇したい」を引き出す授業の実現へ向けて授業実践を行った。 ➡児童の「授業が分かって楽しい」肯定的な回答 83.0% ・基礎基本の定着を図る時間「スキルタイム」では、算数の学び直しを行い、児童一人一人の課題に応じた学習を進めることができた。 ➡6年「全国学力・学習状況等調査」では、全国平均よりも全ての教科（国語・算数・理科）で都平均を下回った。 ➡学校公開での保護者からの自由意見「児童が積極的に学習していた。」「落ち着いて授業に取り組んでいた。」
取組②	「豊かな心」 の育成及び 「支援体制」 の充実	○互いに認め合い、居心地のよい学級、学校づくり ○生命の大切さ、思いやりの心の育成 ○基本的な生活習慣と規範意識の育成 ○差別やいじめを絶対に許さない指導の徹底 ○児童一人一人の特性や適性の適切な把握 ○児童の実態や発達の段階に応じた系統的・体系的な支援の充実 ○特別支援教育コーディネーターを中心とした支援体制づくり ○交流及び共同学習の充実	・あいさつ、返事、話の聞き方等の指導を継続して行った。 ➡児童の「学校でも村ですすんで挨拶をしている」肯定的な回答 87.0% ・異学年交流（なかよし班）での活動を計画的に実施した。 ➡児童の「友達と仲良くしている（悪口やいじわるはしていない）」肯定的な回答 87.0% ・年間3回以上のいじめに関する特別の教科 道徳での授業を実施した。 ・ふれあい月間のいじめアンケートに加え、毎月の心の健康アンケートを実施した。 ➡児童の「困ったときに相談できる友達や先生がいる」肯定的な回答 87.0% ・SCの勤務日に合わせ、定期的な支援委員会を開催した。 ・特別支援教室担当、専科教員、養護教諭及び支援員が積極的に協力指導に入るティームティーチングや、特別支援教育補助員の活用による個に応じた支援の充実を図った。 ➡児童の「学級が楽しい」肯定的な回答 86.0%

取組③	健やかな体の育成	○ねらいを明確にした体育の授業の実施 ○パワーアップ週間を継続実施 ○多様な食育指導の実施 ○自分の心と体を大切にする指導を実施 ○安全指導の徹底、交通安全、災害安全に関する指導の充実	・学習の流れを明確にし、視覚資料を活用した体育指導の実施している。 ・体育の授業で活用できる教材・学習資料を共有した。 ➡児童の「休み時間は外で遊んでいる」肯定的な回答 70.0% ・パワーアップ週間での年間を通した歯科指導を実施した。 ・「性に関する指導」「SOSの出し方に関する指導」「薬物乱用防止教室」を実施した。
-----	----------	--	---

5 次年度の学校経営において重点的に取り組むべきと認識する課題

○確かな学力の育成 ・児童の「〇〇したい」を引き出す授業を目指した授業実践を行う。 ・教員の授業力向上のために校内研究、OJTの充実を図る。 ・一人1台端末の効果的な活用を図る。 ・全教職員にて、学習・生活スタンダードの周知・徹底を図る。 ・個別最適な学び及び協働的な学びの充実の実現へ向けて指導改善を図る。 ➡「小笠原村学力調査」全国正答率と同等を目指す。 ○特別支援教育（特別支援学級・特別支援教室・支援委員会）の充実 ・特別な教育的支援を必要とする児童の観察、実態把握、早期の相談等を行い、全ての児童にとって学びやすい授業や学習環境づくりを実現する。 ・目的を明確にした「交流及び共同学習」や「小集団指導」を行い、児童相互が多様性を理解し、受け入れ、共に学び生活できる関係づくりを推進する。 ➡「学校満足度」で肯定的な回答 児童 90%、保護者 98%を目指す。 ○心身ともに健康である児童の育成 ・体育の授業や体育的活動を充実させ、運動の日常化を図る。 ・体育等に関する器具の整備を日常的に行う。 ・基本的な生活習慣の確立を目指す。 ・食育指導や食育コーナーを充実させ、正しい知識の獲得及び望ましい食習慣の定着を目指す。 ・保健学習の充実のため、担任と養護教諭が連携した授業を行う。また、自分の心と体を大切にする指導を継続して行う。 ➡「健康体力」で肯定的な回答 児童 75%、保護者 70%を目指す。
--

＊本報告書各項目の記載内容は、次年度の教育課程及び学校経営方針等学校経営に係る各種資料へ反映いたします。